

平成27年度立川市子ども委員会活動報告

きれいで住みやすい街づくり部会
～全ての人が暮らしやすい街づくり～

立川市の好きなところや直したいところを話し合い、「きれいで住みやすい街づくり」について、考え、活動してきました。

まず、はじめにきれいで住みやすい街とはどのような街かを話し合いました。

～「きれいで住みやすい街」とは～

- 1、 その街に住んでいる子どもから高齢者まで、さらに障がいのある方も住みやすい街。
- 2、 はじめて訪れた人にも分かりやすい街。

～きれいで住みやすい街、だれもが住みやすい街になるためには、どんなことが必要か～

- ・ごみのポイ捨てをなくす
- ・小さな子どもでも転びにくく、安全で歩きやすい道をつくる
- ・急な坂がなく、誰もが通りやすい道を多くする
- ・障がいのある方やお年寄りのことも考え、階段の段差は低く、スロープの場所を多くする

話し合いの中で、バリアフリーが行き届いていることが必要ではないか、という意見が出てきました。

しかし、このバリアフリーは障がいのある方、ベビーカーを使う方、高齢者への意味合いが強く、本当の意味で全ての方というわけではありません。

そんな中、ユニバーサルデザインという言葉が出てきました。

誰もが安心して暮らしやすい街づくりについて「バリアフリー・ユニバーサルデザイン」の視点から考えていく事になりました。

～立川市福祉総務課の方に【バリアフリーからユニバーサルデザインへ「全ての人が暮らしやすいまちづくり」】について、お話を伺いました。

東京都福祉の街づくり条例とは、誰でも安全で、安心して、かつ、かいてきに暮らし、また訪れることができるまちをつくるのが目的で、そのためには、みんなが協力をするのが大切です。また、「こころのバリアフリー」というものがあります。これは、こまっている人のことを「自分とは関係ない」というふうに考えずに、その人の気持ちになって考えることで、心の“バリア”を取り除くことです。このことを、みんなが考えることによって、誰でも安心、安全、快適に過ごせるような街をつくることができます。



～改めて自分たちの身近なユニバーサルデザインについて考えました～

ユニバーサルデザインで作られたものは正しく使われているのか、実際に自分たちの住んでいる身のまわりの調査をしました。

- ・点字ブロックの上に物や自転車が置かれている。
- ・車いす専用駐車場に健常者が車を止め利用している。
- ・本当にエレベーターを使用したい人が通勤時間帯等に乗れなくなっている。
- ・多目的トイレを使用したい人が使えない。
- ・駅のイスに荷物を置き、座りたい人が座れない。

などがありました。

～ユニバーサルデザインで作られたものは、どのようにしたら正しく使われるようになるか考えました～

- ・多目的トイレは、健常者は通常のトイレを使うように音声アナウンスをする。
- ・駅のイスは座る場所と荷物を置ける場所の両方があるものにする。
- ・点字ブロックについては、駅などで点字ブロックに荷物を乗せないように、音声アナウンスをする。



～どうしたらユニバーサルデザインが正しく使われるのか、人の意識の改善で直していけることではないかと考えました～

～立川市で暮らす人の意識を変えるには～

ユニバーサルデザインやその取り組みについて、多くの人に知ってもらうことが大切だと思います。そこで、様々な年代の人に知ってもらえるよう、新聞、市報、携帯アプリ、インターネットなどにクイズ形式の簡単なフローチャートを載せ、少しでもユニバーサルデザインについて理解することで、意識を変えることができると思います。

2つめに、目かくし体験やユニバーサルデザインを学べる講習をおこなうことです。例えば、学校や地域で障がい者スポーツなどの体験会や、小さな子どもにもわかりやすい劇を通して学べる講習などです。

このような体験や講習を通し、人の意識が変わることで、子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず、お互いに思いやりを持てる、だれもが住みやすい街になります。ルールを守る人が増え、放置自転車や違法駐車などが少なくなり、エレベーターや多目的トイレなど、本当に使いたい人が使えるようになるなど、街全体のマナーやモラルに対しての意識も高くなります。

～そこで、私たちは立川市に次の二つの提案をします～

- 1、ユニバーサルデザインや障がいのある方について知り、体験できる講習を開いてください。
- 2、フローチャートを使い、ユニバーサルデザインについて、全ての年代の方に広めてください。

障がいのある方との交流や体験を通して同じ目線(めせん)になることができ、大人だけではなく小さな子どもにも、ユニバーサルデザインの大切さを知ってもらうことができるからです。

～「きれいで住みやすい街づくり」について活動してみよう～

住みやすい街となることで、外国の方や、初めて訪れる人に良い街だと知ってもらえます。そして、いろいろなまちの情報に対する関心が高まり、ボランティア活動をする人たちが増え、いろいろな問題の改善につながると思います。